

平成25年度 美の里づくりコンクール

選定結果のご報告

平成25年度（第9回）美の里づくりコンクール

受賞団体一覧

【農林水産大臣賞】 1点

なかつがわ
中津川むらづくり協議会（山形県いいでまち飯豊町）

【農村振興局長賞】 2点

くろまつないちようふるさとたから
黒松内町農山村資源活用地域協議会（北海道黒松内町）

たねくら
種蔵を守り育む会（岐阜県ひだし飛騨市）

【美の里づくりコンクール審査会特別賞】 3点

かみくるまる
上黒丸ステキな散歩道実行委員会（石川県すずし珠洲市）

まるやま
丸山千枚田保存会（三重県くまのし熊野市）

しもあかさか
下赤阪棚田の会（大阪府ちはやあかさかむら千早赤阪村）

美の里づくりコンクールとは……

地域の自主的努力により保全・形成されている景観への優れた活動事例を表彰するとともに、あわせてこれら優良事例の普及を図ることにより、国民の共有財産である農山漁村の美しい景観の形成の推進及び都市と農山漁村の交流の促進に資することを目的として開催しております。

審査の経緯

本年度は平成25年11月のお申し込み締め切りまでに、全国から30団体のご応募をいただきました。ご応募いただいた資料につきましては、「美の里づくり審査会」による書類審査を実施し、最終的に、平成26年3月5日（水）に最終の審査選考が行われ、この度お知らせいたしました農林水産大臣賞をはじめ6つの団体が選定されました。

美の里づくり審査会 委員名簿（敬称略）

| 氏 名 | 現 職 |
|------------------------------|--------------------|
| きぬたに こうじ 絹谷 幸二 (審査委員長) | 画家、東京芸術大学名誉教授 |
| アダム・フルフォード | フルフォードエンタープライズ CEO |
| ぬまた さなえ 沼田 早苗 | 写真家 |
| はま みえ 浜 美枝 | 女優・農政ジャーナリスト |
| ふなやま りゅうじ 船山 龍二 | 社団法人日本観光振興協会副会長 |
| みやぐち としみち 宮口 侗廸 | 早稲田大学教授 |

平成25年度（第9回）美の里づくりコンクール 受賞地区の概要

農林水産大臣賞

山形県 いいまち 飯豊町 なかつがわ 中津川むらづくり協議会

人もかがやく 自然もかがやく いいもんだ中津川

恵まれた自然と住みよい中津川の創造を目指して全戸が加入する「中津川むらづくり協議会」を組織し、地区に残る自然や景観、伝統や技術、農業や食など、ありのままの中津川を活かしながら来訪者に提供していける地域づくりを進めている。中津川は、年平均の積雪深が2.5mとなる全国有数の豪雪地で、冬期間は陸の孤島を余儀なくされてきた地域である。生活を圧迫する過酷な条件の中で雪に耐え、克服し、互いに手を取り合い、利用する生活を営んできた。

5月まで残る雪が消えて春をむかえる頃、中津川のメインストリートは見事なスイセンロードとなり来訪者を出迎える。また、残雪の中に花開く雪見桜は豪雪地ならではの景観を提供している。夏には、中津川地区で最大のイベントとなる、夏まで保存していた雪を使った「SNOW えっぐフェスティバル」を開催し、地域資源を活用した都市と農村の交流を行っている。秋には、中津川ならではの美しい山々の景観とともに、きのこなどの山の恵みや特区のどぶろくが楽しめる。豪雪の冬には冬の景観と暮らしを体験するふるさとツアーや雪まつりの開催など、一年を通して中津川の景観が楽しめるメニューを揃える。

平成19年から始めた中津川の暮らしと営みを体験できる農家民宿は、現在9軒となり、人的交流の輪が広がっている。来訪者からの言葉で地域の中に宝物（景観・食・人・技など）が沢山あることに気付くなど、中津川の素晴らしさを地域住民が見つめ直すきっかけともなってきた。



展望台から臨む中津川地区



春の雪見桜

農林水産省農村振興局長賞

北海道 くろまつないちよう 黒松内町 ふるさとたから 黒松内町農山村資源活用地域協議会

ブナ北限の里づくり ～「日本で最も美しい村」を目指して～

黒松内町は、北海道南西部に位置する酪農の町で、町の面積のうち 76%が森林で覆われ、日本のブナの北限域で国の天然記念物に指定された「歌オブナ林」があるなど、自然が豊かで、美しい酪農景観を有する町である。

このような魅力的な資源をさらに磨くために、町では平成 7 年から住宅の色彩を定めた景観ガイドラインの策定や交流施設の形と色彩の統一、野積廃自動車の撤去、景観行政団体としての登録、「日本で最も美しい村」連合への加盟などを進めてきた。

そして、これらの取組を活かし、美しい自然や景観、多様な施設、食や歴史・文化などを有機的に結び付け、都市と農村の交流を図るために本協議会（前身の会を含む）が設立され、フットパスの整備を進めてきた。現在は総延長 36km、5 コースと全国的にも屈指のフットパスになったが、この間、フットパスの整備・PR のみならず、住民が自分の地域の美しさに気づき、美しい景観を守り育てるために自主的に活動する人々を増やすために、景観アドバイザーを招いた住民勉強会の開催や本場イギリスへの視察、フットパスウォークイベントの実施、関係団体との連携と協働活動の働きかけなど、本協議会は、町の自然と景観の価値を発掘し、さらなる価値の創造を図る取組を行っている。



フットパスウォーキングのイベント



町の交流施設は統一したデザインで

農林水産省農村振興局長賞

岐阜県 ^{ひだし}飛騨市 ^{たねくら}種蔵を守り育む会

棚田と板倉の里 ～伝えたいこの香り、残したいこの風景～

宮川町内の有志で組織されるこの会は、地域住民とそれを応援する団体・行政との協働により、集落の暮らしを尊重しながら適度な交流人口を招き入れ、集落環境の保全整備を進めることで地域の活力を取り戻し、日本の原風景として種蔵に残っている棚田・板倉の文化、生活、歴史を次世代に守り伝えていくため活動している。

景観保全の一環として、初夏には集落内にある水路・道路沿い及び緩斜面のみょうが畑や水田周辺と不耕作地内の草刈を行い、雪で崩壊した田の石積み復旧作業等も行っている。不耕作地の水田を利用し植虫環境のためのビオトープの造成も3箇所行って来た。それ以外の不耕作地については、高冷地に適している蕎麦・あぶらえ或いは大豆と昔から種蔵集落にしかない種蔵紅かぶ等の栽培を行っている。中でも蕎麦については、海拔1000mで収穫した万波蕎麦や搗き屋で搗いた蕎麦を使った「種蔵新そばまつり」を開催し、地元住民は基より他市町村からの来訪者に、その場で打った蕎麦を提供している。さらには、炭焼き窯の構造や技術・文化の伝承・体験として炭釜を復元した。冬の3月には田の石積みの雪庇落しを行い、本年度からは、散策用の遊歩道整備もボランティアの手で始めた。



棚田と板倉のあるふるさと風景



都市住民の力を借りて棚田の石積みの草刈り

美の里づくり審査会特別賞

石川県 ^{すざし} 珠洲市 ^{かみくるまる} 上黒丸ステキな散歩道実行委員会

”ステキ”な散歩道で地域づくり

石川県珠洲市の西部に位置する若山町上黒丸地区は、山間の10集落により構成されるとともに、ブナの自然林をはじめ、手入れの行き届いた棚田や畑、歴史を感じさせる古民家等が数多く点在するなど、「能登の里山」を象徴する農村景観を有している。

地域内では、戸数138戸、人口321人（平成25年9月）のうち44%にあたる147人が65歳以上の高齢者であり、また一人暮らしも多く、これまで各集落で取り組まれてきた里山保全のための地域コミュニティ活動や、伝統文化の継承等が困難になりつつある。

しかし、この上黒丸地区には、「幻の滝（大滝、中の滝、下滝）」「宝立山の新緑や紅葉」「源氏螢の乱舞」「あえのこと」「地元食材」など、四季折々の美しい景観や豊かな食材と、これらにまつわる伝統文化が今も息づいている。そこで、地域住民を中心に、こうした様々な里山資源や伝統文化等を活かし、その魅力を体感するウォーキングイベント”上黒丸ステキな散歩道”を開催し、里山の利用や保全活動への理解促進を図るとともに、こうした取組を契機とした農山村地域の活性化による持続可能な地域づくりを目指している。



上黒丸ステキな散歩道 ブナ林を歩く



米の豊作を願って「あえのこと」

美の里づくり審査会特別賞

三重県 ^{くまのし}熊野市 ^{まるやま}丸山千枚田保存会

みんなの手で守り、未来に伝える！日本の原風景『丸山千枚田』

かつては2,240枚あったとされる「丸山千枚田」。過疎高齢化による耕作放棄地の拡大により530枚まで減少した田を復元した。この地域の美しい景観と日本の原風景を取り戻すため、平成5年10月から丸山千枚田保存会・一般財団法人熊野市ふるさと振興公社・熊野市の3者が協力しながら、雑木を切り倒すことから作業を始め、切り株を掘り起こし、崩れた石垣を積み直すなどの作業を年間90日以上行った。平成6年は20枚、7年は290枚、8年は210枚、9年は290枚を復元し、1,340枚の棚田となり現在に至っている。

先人たちが開墾し、長い歴史を超えて人々が受け継いできた文化的遺産『丸山千枚田』。この『丸山千枚田』を守り、後世に継承していくため、丸山千枚田保存会、熊野市ふるさと振興公社、熊野市、地域住民、地元保育所、小・中・高校、大学、オーナー・守る会会員、そして丸山千枚田に関わるすべての人たちが一丸となり、保全活動を基本として棚田オーナー制度や充実した体験プログラム、伝統行事の復活、教育機関との連携等、様々なプロジェクトを実行している。



迫力のある丸山千枚田



地元の小中学生の稲刈り風景

美の里づくり審査会特別賞

大阪府 ちはやあかさかむら 千早赤阪村 しもあかさか 下赤阪棚田の会

歴史と景観を併せ持つ「下赤阪の棚田」の保全

農林水産省の日本の棚田百選に「下赤阪の棚田」が認定されたのを機に、区域内で耕作する農家 15 軒で「下赤阪棚田の会」を結成して以来、棚田の保全、PR などを行っている。これにあわせ、大阪府の協力で「棚田ふるさとファンクラブ」の参加も得て、ジャガイモやサツマイモ、景観作物としてヒマワリやコスモスの栽培などに取り組んでいる。さらに平成 21 年度、22 年度には、大阪府南河内農と緑の総合事務所が募集した「みどりの探検隊」が行う田植え、稲刈りなどの稲作体験に協力をした。一方、農家が自力で維持することができない農地は、非農家の都市住民の協力を得て、保全に努めている。

この間、棚田に関心を寄せる都市住民が増加し、平成 21 年度からは棚田の畦に 3000 本のろうそくを並べるライトアップを実施し、多くの観覧者を得ている。さらに平成 24 年度からは従前の農業文化祭と併せて一つの事業（こごせ金剛山の里 棚田夢灯り&収穫祭）とし、獅子舞の披露なども行い、内外に村の農産物、農村文化を PR する機会となっている。

また、平成 25 年度には、後継者確保、将来にわたっての棚田の保全を考慮して、農業へ新規参入する人や農作業を助けることができる人を養成するため、「大人の棚田塾」を開講した。



下赤阪棚田での作業風景



なかつはら 中津原地区に伝わる伝統芸能の獅子舞